

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2190100038		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホームことづか れんげ草		
所在地	岐阜県岐阜市琴塚1-7-12		
自己評価作成日	平成29年8月15日	評価結果市町村受理日	平成29年11月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2190100038-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2190100038-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成29年 9月 8日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご本人の意向やご家族様の意向を重視し、ご希望に添える様支援しています。また、外出支援には力を入れており、エリアの文化祭では9名の利用者様全員が参加し作品作りに挑戦して頂きました。習字の得意な方には、文化祭プログラムを書いて頂き、ご本人の自信にも繋がりました。ホームではその方の得意な分野で力を発揮できる様支援しております。今年は作品が多く季節の飾り物作りに挑戦して頂き、季節を感じて頂きました。  
又事故のリスクとして単独がありますが、あえて自由に動ける環境をつくり単独のリスクを軽減し、又事故対策委員が主になり事故に対する危機意識を伝えヒヤリハットの定着、気づきを増やす対策を行い、大きな事故に繋がる事が無く安全に過ごして頂ける様な環境を整える様にと取り組んでいます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホーム理念が理解され、責任者の利用者に対する優しさや思いやりが各職員に浸透している。利用者の安全を考えた上で、利用者の意向・要望に沿った支援が実践されていた。  
利用者の自立支援のために、また身体機能の衰退に抗うような“寄り添う支援”を職員が実施していた。外出したい利用者が玄関に来て外の様子をうかがっていれば、傍で見守って適切な時を見計らって同行外出をしていた。食事の介助も極力控え、利用者の残された力を最大限に発揮してもらおうとの、職員の利用者に対する熱い思いが随所に見て取れた。  
管理者と職員の安定した関係が構築されており、職員は管理者に何でも言える関係であり、管理者は職員意見を常に汲み取れる機会を持っている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ことづかの文字を活用し、独自の理念を掲げている。朝礼、夕礼にはメディカルのビジョンを毎日唱和しケアの向上を図っている。	法人のビジョンをホーム理念と共に毎日唱和している。“押しつけないケア”の信条を、優しさ、思いやりに付け加え、実践に反映できるように支援している。会議でも振り返りと理念の確認をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域への買い物や、祭りに参加し地域の方との交流を図り、近隣で開催される認知症カフェには毎月参加させて頂いている。	自治会に加入し、町内清掃や季節の行事、お祭り等に積極的に参加している。近隣の病院主催の認知症カフェにも毎月参加し、地域の人との付き合いをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座を開催し、地域の方に発進をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様や地域包括、行政の方、又は地域住民である民生委員さんに参加をして頂き、皆様のご意見を参考にしている。又民生委員さんより、ふれあいサロンについての情報等を頂いている。	家族、市担当課・地域包括支援センター・ケアマネセンターの職員、民生委員等が参加し、年間6回の運営推進会議を開いている。ホームの現状報告を詳細に行い、参加者による意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での報告はもちろんの事、わからない事については、行政に確認を取り協力関係を築く事が出来ている。	行政との協力関係は有り、高齢福祉課とも協力体制はある。運営推進会議の議事録提出や生活保護を受給する利用者の関連で、市役所に顔出ししている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内研修を行い学ぶ機会を設けている。単独の経験を活かしあえて利用者様が自由にユニット間を行き来出来るようにし、玄関について単独のリスクを考え、やむを得ず施錠はしているが玄関ベンチ等、利用者様が座られる機会も多い。	“押しつけない支援”を心がけ、利用者の行動制限をしない支援を実践している。玄関が幹線道路に面しており、安全確保のため施錠している。夜間はセンサーライトの設置で対応している。不適切ケアに関しては、2ヶ月に一度自己チェックをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2か月に1回虐待、不適切ケアのチェックシートを活用しケアの見直しを行い、度々研修も行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についてはホーム内研修で学ぶ機会は設けられ理解を深める様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書や重要事項説明書を丁寧に説明をし、理解をして頂いている。解約、改定時は、その都度理解、納得して頂ける様に十分な説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置、御家族様アンケートのご意見、要望など、定期的にお聴きする機会を設け職員に伝えている。	今年から年2回の家族満足アンケートを実施し、利用者の意向とともに家族の意向を汲み取っている。意見や要望事項は会議だけでなく、随時職員間で話し合っ対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回職員アンケートが行われ、その結果を踏まえ個人面談を行い職員の意見等を参考にしている。	職員ミーティングは定期的を実施し、年2回の職員アンケートも実施している。管理者は、日々の報告と申し送りでも随時職員の意見を聞いている。職員主催の企画実施や、事故対策カンファレンスも実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の面談や談話の中から職員の思いなどを把握し、働きやすい環境を常に考え改善している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修はもちろんの事、法人が資格取得援助を行い、ケアの向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に1回エリアでの一般研修に参加したり、エリアでの活動にて交流する機会を設け常に、質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントを元に、ご本人のニーズを探り、安心して過ごせる環境を整える事が出来る様に配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを提供する段階でご家族様の気持ちや要望等を傾聴し、職員間でも情報共有しながら、サービス内容を検討している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人とご家族様の意向に添える様、入居前アセスメントにて、職員とカンファレンスを行い、支援内容を見極め対応させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様には自由な環境の中で生活をして頂いており、職員主体で動かず利用者様本位を大切に出来る様に配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様には毎月お便りにて、日常生活やホームでの出来事をお伝えし、ご家族様との絆が途切れることなく、共にご本人を支える事が出来る様に配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院によく出かけたり、ご近所のお友達等が気軽に来て頂いたりしている。又馴染みのかかりつけ医への受診を行い関係が途切れない様に支援している。	利用者の希望要望に可能な限り対応し、近所の人や従来からの友人の来訪時にもお茶を出し、昔話をしてもらっている。年賀状や暑中見舞いを出したい利用者にも対応し、関係が断たれない支援を継続している。	利用が長くなったり、認知度が進行したりすると、馴染みの人の来訪が減ってくる傾向にある。誕生日外出を活用し、馴染みの人や場所との関係継続を支援してほしい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が仲良く出来る様に、利用者様のバランスを考慮し、席替を行ったり間に入り話を傾聴し、共に関わり支え合える様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後にご連絡のあった方に関しては、ご逝去された方のご葬儀に参列し、良い関係性が築ける様に配慮している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人の意向を考え、自然が好きな方には、木と花に触れる機会を設けたり、外食事はご本人の食べたいもの、基本的に御本人本位にて生活して頂けるよう検討をしている。	何が利用者にとって重要かを考え、日々接する担当者は顔色や行動等、細かい事も記録して申し送りをしている。また、家族からの情報も念頭に置いて支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントを把握し、不足部分に関しては、ご家族様やご本人の日頃の何気ない会話の中から、生活歴等を把握する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員1人1人が利用者様の現状を把握し、モニタリングを行い、その方のニーズに添ったケアが出来る様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新時にはカンファレンスが行われ、ご家族様来訪時にはご意見等を聞きしている。健康面に関しては医師や訪問看護師、薬剤師等との連携を図り相談したりアドバイスを頂き介護計画を作成している。	毎月カンファレンスを実施し、3ヶ月毎に介護計画を見直している。職員の意見を取り込み、利用者、家族の意向、要望を重視して作成している。居室担当者のコメントを家族にも公開し、最適な介護計画を目指している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリングを通じて、カンファレンスを行い情報共有をしながら、その方のニーズをケアプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々、利用者様に添ったニーズを考慮し、エリア他ホームなどにも出向く機会があり、協力しながら支援内容を考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々近隣への買い物、地域行事等に参加したり、清掃活動を通じて地域の一員として楽しく生活が出来る様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診があり、熱発の場合など早期受診対応を行い、又その方の状態に合わせて訪問看護師により点滴治療等も行っている。又かかりつけ医のある利用者様は、ご家族様と一緒に通院をされている。	月2回の協力医の往診があり、利用者の健康状態を把握をしている。以前からのかかりつけ医を利用する場合は、家族対応としている。訪問看護師の来訪も定期的であり、利用者の状態把握に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所では常に早期受診対応を行っており、職員間での情報共有が図れている。又週1回の訪問看護では気軽に相談が出来、適切にアドバイスを頂き記録を残している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用様が入院した際には密に連絡を取り、早期退院が出来る様に心がけている。今期は入院者がみえなかったが、万が一に備え病院関係者との情報交換が出来る様に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	実際に今年3月に看取りでご逝去された方がみえるが御家族様と医師との話し合いを行い、職員も看取り研修を行い、十分理解した上で看取りが出来る様な体制を整えている。	重度化や終末期の看取りについては、家族とも密に連絡し相談している。結果的に看取りとなった事例もある。職員全員が適格な看取りができる体制構築のため、現在研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修にて緊急時対応を学ぶ機会があり、職員全員が救命救急講習に参加し、AEDの使用が可能であり、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練に参加したり、災害時マニュアルの研修も行われ、年に2回は避難訓練も実践している。	年に2回の防災訓練を実施し、1回は消防の立会の下で避難・消火訓練を行った(4月、11月)。地域の防災訓練にも参加し、食料等の備蓄品もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	2か月ごとに不適切ケアの見直しを行い、言葉使いなど、十分に配慮した対応をしている	不適切ケアの見直しを行い、利用者の言動や個々の生活ペースを大切に、見守りを行っている。トイレ、居室は閉める事を徹底し、入浴に関しては浴室の中に入らない配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の希望や思いなどを会話の中からくみ取り、気持ちを言える方や言えない方に関しても、自己決定が出来る様に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の時間を優先し、ご本人の動きを束縛することなく、自由に動いて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日清潔なものを着用、汚れた際には交換をしている。基本ご本人の意思決定を尊重している為、毎日同じ服を着られる方に関しては、夜間等洗濯し又朝服を置いておくなどの配慮を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人が作ったメニューで提供しているが、職員が手作りのお菓子を提供する際に、楽しみながら一緒に作ったり自主的に片付け等を行って頂いている。	調理専門職員がおり、美味しい料理を提供している。ミキサー食や刻み食にも対応し、水分補給は分けてでもできる工夫をしている。誕生日外出では、寿司店やファミリーレストランが人気である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人が作ったメニューの為栄養バランスは整っており、食事の形態などもその方に添った状態にて提供し、摂取量等も把握し記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立で出来る方は見守り、出来ない方に関しては、職員が口腔ケアを行っているが、口腔ケアを嫌がる方に関しては無理強いをせず、歯科衛生士にお願いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを把握し、先に声掛け失敗を減らす様には心がけている。又ご本人の様子を観察しながら、トイレ誘導を行っている。	トイレへの誘導は、チェックシートを確認して適時の声掛けをしている。夜間の利用者の排泄パターンを把握し、声掛け・手引き誘導をしている。基本はトイレ使用だが、リハビリパンツも利用して自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	基本食事はメニュー通りなので、起床時に冷たい牛乳であったり、フェカリス菌等も導入し、便秘対策を講じている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は入浴表により間隔が開かない様に配慮し、ご本人の希望に添って入浴を行っている。	利用者の意向を第一に、入浴支援を行っている。身体にはタオル掛けて隠し、浴室の中まではできるだけ入らない配慮もしている。身体機能が衰退しないように、髭剃り等は本人に一部を任せている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣を踏まえ、自由な環境の下、休息して頂ける様に配慮している。自立の方に関しては居室での休息は自由な為、御自分が昼寝をしたくなったら横になって頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が服薬確認を行う際、2人で容量確認を行い、服薬ミスを起こさない様に努め、その都度変化があった際には、情報共有が行われている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に添った役割に参加し、介護度の高い方に関しても、その方にあった楽しみを作り、喜んで頂き生活が出来る様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御本人の意思を尊重し外出支援を行った。食事が出来ない方や、車いすの方に関しても外出が出来る様に配慮している。又岐阜エリアの文化祭にも9名の方が出かける事が出来た。	利用者の高齢化・重度化によって、外出頻度が下降している。それでも、日常的な外出支援として、利用者の要望を聞いて近隣の散歩、買い物、喫茶店等に出かけている。時期により、花見や弁当持参の公園散歩もしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いはホームにて管理しているが、ご家族様から、直接手渡されたお金に関しては、ご本人やご家族様の意見を尊重し自由に買い物の際に使って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯にて自由に御家族様に電話されたり、電話をかけたいという方には、御家族様了承の上電話をして頂いている。又手紙等も自由にやり取りできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は中扉も開放されており、ユニット関係なく利用者様が自由に行き来出来、居心地良く過ごせる様に工夫をしている。又利用者様が作成された季節の飾りなどが展示され季節感を感じて頂いている。	廊下等の飾りつけはシンプルで落ち着いた。食堂ホールには利用者の塗り絵等が飾られており、訪問した時にはハロウィンの飾りつけもあって、季節が感じられる空間に工夫されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	動きをさえぎる事無く、自由に動いて頂き、気の合った方同士話せる環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた馴染みの物を居室に置いて頂き、安心して過ごせる様な空間を作っている。	各居室は掃除が行き届き、馴染みの品が配置されている。仏壇を置いている利用者もあり、昔からのアルバムを手元に置いている人もいた。家族の写真を飾り、ホームで作成した小作品を飾っている人もいた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に応じ出来る事は行って頂き、出来ない事をサポートさせて頂いている。トイレの表示等はわかりやすく、場所がわからず不安にならない様に工夫をしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2190100038		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホームことづか いちいの木		
所在地	岐阜県岐阜市琴塚1-7-12		
自己評価作成日	平成29年8月15日	評価結果市町村受理日	平成29年11月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2190100038-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2190100038-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成29年 9月 8日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご本人の意向やご家族様の意向を重視し、ご希望に添える様支援しています。また、外出支援には力を入れており、エリアの文化祭では9名の利用者様全員が参加し作品作りに挑戦して頂きました。習字の得意な方には、文化祭プログラムを書いて頂き、ご本人の自信にも繋がりました。ホームではその方の得意な分野で力を発揮できる様支援しております。今年は作品が多く季節の飾り物作りに挑戦して頂き、季節を感じて頂きました。  
又事故のリスクとして単独がありますが、あえて自由に動ける環境をつくり単独のリスクを軽減し、又事故対策委員が主になり事故に対する危機意識を伝えヒヤリハットの定着、気づきを増やす対策を行い、大きな事故に繋がる事が無く安全に過ごして頂ける様な環境を整える様に取組んでいます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を玄関先に掲示しており、クレドを申し送り時に唱和するなど共通意識をもてるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りへの参加や認知症カフェへの参加、季節行事を開催したり、外食支援をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェに参加し、当事者や介護者と交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内で行った行事の様子や事故対策等の取り組みに対して、参加者からの意見も取り入れながらホームの運営に反映させ、サービスの質向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などへの参加をお願いし、ホームで取り組んだ内容について資料を作成し、意見を伺ったり、不明な点は相談するよう連携に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内研修で身体拘束について学ぶ機会を設けた。各ユニットにマニュアルが置いてあり、確認できるようにしてある。大通りに面しているため、玄関は施錠してあるが、各ユニットは自由に行ききできるようにしてある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修で高齢者虐待を防止について学ぶ機会を設けた。各ユニットにマニュアルが置いてあり、確認できるようにしてある。不適切ケアについて気が付いたことがあれば、朝と夕方報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修で権利擁護や成年後見制度について学ぶ機会をもち、理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規で入居される際は契約内容や重要事項説明書を丁寧に説明し、理解を確認しながら分からない個所があれば再度説明するなど十分な説明を心がけ、納得頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置し、面会時に記入しやすいようにしている。また、遠方でなかなか面会にこられないご家族に対してはアンケートを郵送することで意見を聞く機会を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議やユニット会議等で随時、運営に関する意見が言えるような環境と雰囲気をつくっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員アンケートを通じて職員の声が会社に届くように実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員と日頃コミュニケーションを取るよう心がけ、その力量に応じて研修に参加できるように勤務体制を配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での他の事業所との交流や研修、会議を通じて困難事例を相談し合うなどサービスを向上させる取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを通じて今までの暮らし方や好みを本人や家族から聞き取り、入居後の生活に生かせるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談などでご家族が困っていることなどを聞き取ったり、要望に耳を傾けたりすることで安心してホームで生活していただけるような関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族様の意向を汲み取り、職員同士で情報共有しながらサービスの内容を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームで一緒に共に暮らしているのだという思いで毎日の支援を行い、レクや行事等の参加、普段から話掛ける等コミュニケーションを取るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に毎月のお便りで日々の様子を伝えたり、面会時に日頃の様子を伝えたり、会話を通してご本人の支えとなる関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホーム入居後もなじみの美容院に行ったり、自宅で暮らしていた時からのかかりつけ医の元へ通院したりと関係がとぎれないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の関わりの中で個人の性格や関係性を把握し、仲が良い場合はより良好になるようにトラブルになりそうな時は間に入り仲裁している。お互いの悩みを相談しあったり、アドバイスしている姿も見かける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養へ入居された後、訪問した時に様子を聞いたり必要に応じて情報交換をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のアセスメントを元に、ご本人のニーズを探り、安心して過ごせる環境を整える事が出来る様に配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービスを提供する段階でご家族様の気持ちや要望等を傾聴し、職員間でも情報共有しながら、サービス内容を検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	御本人とご家族様の意向に添える様、入居前アセスメントにて、職員とカンファレンスを行い、支援内容を見極め対応させて頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様には自由な環境の中で生活をして頂いており、職員主体で動かず利用者様本位を大切に出来る様に配慮している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	御家族様には毎月お便りにて、日常生活やホームでの出来事をお伝えし、ご家族様との絆が途切れることなく、共にご本人を支える事が出来る様に配慮している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	馴染みの美容院によく出かけたり、ご近所のお友達等が気軽に来て頂いたりしている。又馴染みのかかりつけ医への受診を行い関係が途切れない様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様同士が仲良く出来る様に、利用者様のバランスを考慮し、席替を行ったり間に入り話を傾聴し、共に関わり支え合える様に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	退去後にご連絡のあった方に関しては、ご逝去された方のご葬儀に参列し、良い関係性が築ける様に配慮している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護師にみてもらい、日頃の状態を伝えたり、状態について相談したりアドバイスをもらったりと連携に努めている。受診の必要性についても相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はお見舞いに行き、担当者から様子を聞いたり、ご家族の希望を伺いながら早期に退院できるよう関係者と連携を取りながら支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、重度化した時の方針について説明している。ご家族の希望を伺い出来る限り希望に沿えるように看取りについても医師と連携を取りながら今後の方針を決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修で緊急時対応について、学ぶ機会を設けている。マニュアルも作成しており周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間想定等の避難訓練を行っている。うち1回は消防署の立ち合いのもと行い、消火訓練もしている。また、災害時の水や非常食も常備しており、運営推進会でも取り上げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人、一人の個性を把握し、誇りやプライバシーを尊重した声掛けや対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の希望を日頃から言える人だけではなく、上手く伝えられない方でも日常の会話や様子から思いを汲み取ったり、どちらが良いか聞くことで自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしが送れるように、生活のペースを把握することで、ご本人のペースに合わせた支援ができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で好きな服を選ぶことができる人は選びやすいように支援したり、選べない方もその人の好みに応じた服装ができるように支援している。スカーフを自分でまかれている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	玉ねぎの皮むきやフルーツ缶の取り分けなどの準備やお米とぎ、お皿洗い、トレイ拭き等の家事参加を声掛けにて行っている。また、おやつ作りも一緒に行うこともある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の考えた調理指示書に記載された料理を提供することが多く、栄養バランスも取れている。また、噛む力に応じて一口大に切って提供する等個別ケアに取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	普段のケアの中で行き届かない所は週に1回の訪問歯科衛生士さんが口腔ケアをしている。その際、口腔内の不調や虫歯などは歯科医と連携をとり治療している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、声掛けや本人の訴えに応じてトイレへ案内するように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分が不足しがちな方には小まめに声掛けしたり、スポーツドリンクに替えて少しでも飲んでいただけるように支援している。状態に応じて主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の好みに応じて、希望の入浴剤やシャンプーが使われている方もいる。入浴時間もゆっくりな方はゆっくり入れるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活のペースに合わせて昼寝の時間を設けたり、声掛けしている。また、夜間、安心して眠れるように室温や環境に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問薬剤師さんと連携を取りながら、薬について相談したり、アドバイス頂いている。往診時に症状について主治医に報告して、状態の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の掲示物や飾り物づくりをしながら、完成した時の感動を味わえるように支援している。楽しんで取り組まれるので毎月、新しい作品を作ることができている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の夏祭りに参加したり、認知症カフェに参加している。自然環境が好きな方と岐阜公園や散歩に出掛けたり、なじみの美容院に出掛けている。誕生日には好きな物が食べられるように外出支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食やおやつの買い物時、レジでの支払い時にお金を渡して支払いの体験をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方は自分から電話されたり、絵葉書を書ける方は絵手紙を出したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに季節の飾り物や掲示物を作り掲示してある。また、塗り絵をされた後、個人の居室に飾ったりされている。室温管理にも気を配っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで隣どうしで昔のことや、現在の悩みについて相談されたり、廊下や居室でおしゃべりされたりしている。また、隣のユニットに行って過ごされる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた家具を持ち込まれて、自宅で暮らしていたように過ごせるように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今、できること分かることを減らさないようにご自分でなるべくできるように支援している。トイレの表示や居室の表札など分かりやすくしている。		